

発行元  
東京新聞南千住東口専売所  
TEL5850-3699  
発行責任者  
鬼塚 佳代子  
TEL3807-3486  
携帯090-2657-0300

# すまいるたん

汐入



第51号  
平成19年  
11月3日

## 主役は踊り手さん 納涼太鼓「大場連」

「今までにない時間をすごせる。だからこそ、この伝統を守って行きたい」

納涼太鼓「大場連」の副会長である澤内智恵子さんは、小学生から盆太鼓を始めて30年になります。

和太鼓は叩けば誰でも簡単に音が出る最も手軽な楽器です。山車で小さな子が叩いていると微笑ましく、懐かしさを感じますよね。ばちで叩くものは太鼓、手で叩くものは鼓（つづみ）と呼ばれており、大太鼓は音楽の三大要素（リズム・メロディ・ハーモニー）の中のリズム学習をする汗びつしよりの音楽です。

納涼太鼓「大場連」は、荒川区大太鼓連盟8団体の中の一つです。曲に合わせて踊り手さんが踊りやすい太鼓をめざしている盆太鼓専門が特色です。小学1年生の子供から60代の方まで会員は40名近くおられます。

「リズムを崩さない。」

曲に忠実に太鼓だけで勝負する為、お囃子はありません。また、踊りが止まってしまうのでバチも回しません。大場連

の主役は、踊り手さんです。踊り手さんは、大場連の太鼓のリズムで踊ります。

「踊りなさい」

踊り手の厚い信頼に応える為には、踊り手の気持ちになる事が大事です。どういう風に叩いたら、踊り手がリズムが取れて踊りやすいか、まず自分が踊ってみる事が重要と澤内さんは子供達に伝えています。相手の立場で考えることは、教えられてできることではありません。

踊り手の立場に立って、0・数秒、曲より早く入れることで踊りやすいことに気がついたと澤内さんは、おっしゃっています。

「ドドンがドン、チキチツチ」が打てるようになるのに1年、音が出せるようになるのに3年かかり、4年で八木節が叩けるようになって1人前です。

この基礎ができたなら打ち方は十人十色です。大場連の太鼓は、型はありませんから、同じ曲でもそれぞれ違った叩き方で自己表現できます。

自分を出せる場所がある、見られる喜びと共に、見て聞いて喜んでもらう喜びがあります。発表することで自分に自信が持てます。一曲演奏すると身体はもうくたくたになります。充実感でいっぱいになります。

「手の豆がつぶれても構わない」

本番の最後の何曲かは、打ち手の想いのこもった叩きがあります。会の子供達はやぐらでの叩きを目で見て、音で感じ取ります。挨拶などの礼儀はもちろん、踊り手の気持ちに立つことで、場の空気の読める人になります。学校や家庭で学びきれない「人としてのあり方」を子供達は自然と学んで行きます。

年1回の「荒川区文化祭 大太鼓盆踊り大会」は大きな発表の場です。他には盆踊り大会はもちろん、保育園・幼稚園・高齢者施設に出かけ、多くの人達の体と心に太鼓を響かせている大場連は、毎週水曜午後7時半から1時間、荒川一中1Fの多目的ホールで練習しております。

奥が深い太鼓の世界、聞くのも楽しいですが、自分で打つと、もつと楽しいと思います。カラダとココロの開放をして見ませんか。



### 大場連

#### 納涼太鼓大場連

日時 水曜日 19:30~20:30  
場所 荒川第一中学校  
会費 年額6000円  
問合せ先 東京新聞南千住専売所  
電話 3803-1781